

(3) 保育室の床面積

保育室の床面積を平方メートルか、畳で何畳かで記入してもらった。畳1畳を1.65平方メートルとして、平方メートルに換算し、平均値を求めた。その結果、平均(標準偏差)は50.7(30.0)平方メートルであった。表2-1に示したように、この保育室で過ごしている子どもの人数の平均が13.0人なので、一人あたり、3.9平方メートルということになる。調査対象がすべて認可保育園であることを考えると、平均値は妥当な値であろう。

中央値を算出すると、46.2平方メートルと平均値

よりも小さな値であった。また、最小値と最大値をみると、最小値は265平方メートル、最大値は396平方メートルであった。最小値は一人あたりのほふく室の基準である3.3平方メートルを下回っていた。

図2-2は、床面積の分布を示したものである。横軸は10から400平方メートルまでを10平方メートルごとに示している。50平方メートル(40~50平方メートル)が最も多く、右(広い面積側)に裾野が長くなっている。最大値は396平方メートルであった。

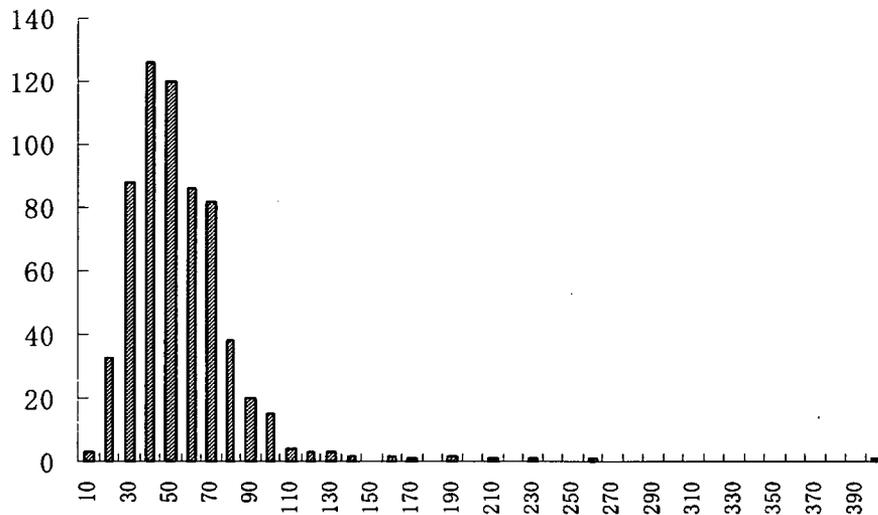


図2-2 床面積の分布

(4) 保育室の床の上の備品

図2-3は、保育室の床の上に置いてある備品（いつも床の上に置いてあるもの）として選ばれた割合を、高い順に示したものである。ベッド、食事用の机椅子、子どもの個人用ロッカー、遊具の収納棚の4つが50%を超えており、半数以上の保育所ではこれらの備品が床を占有していると言える。

その他としてあげられた備品には、滑り台・ジャングルジムなど遊具、ストーブなどの暖房器具、空気清浄機・加湿器など空調器具、流し台・調乳台・洗濯機など水回りに関するもの、ソファ・畳・サークルなど空間に関するもの、押入・本棚・絵本棚など収納に関するものなどがあつた。

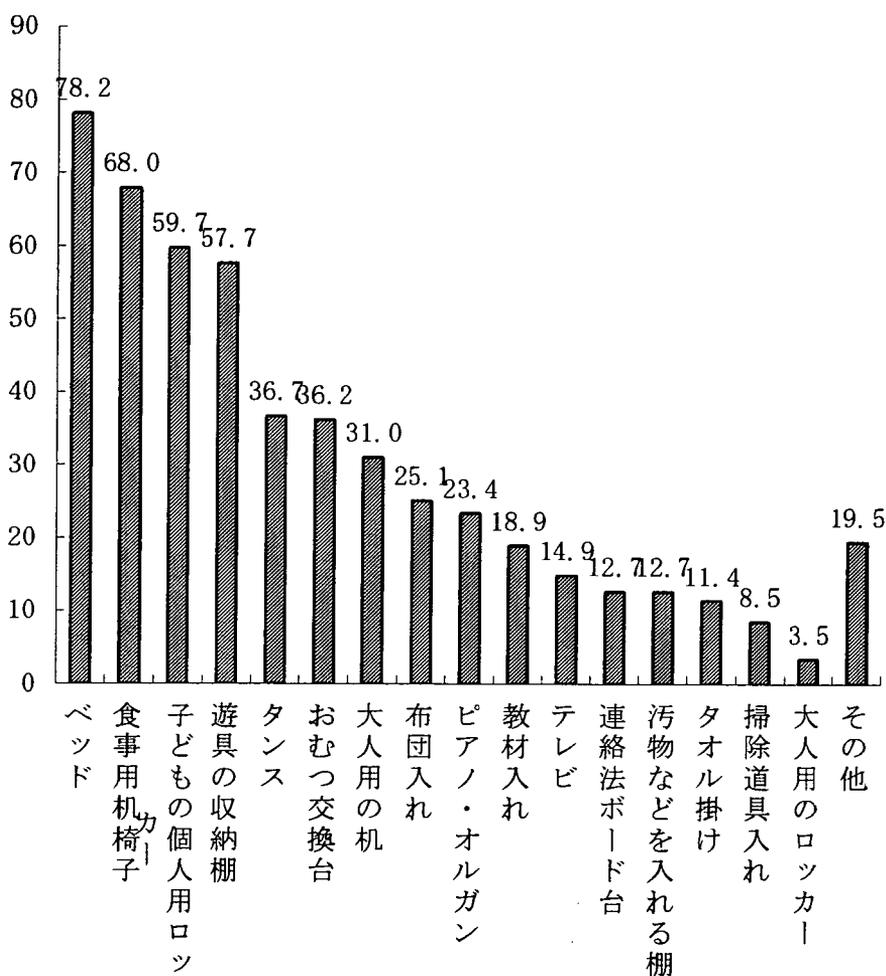


図2-3 保育室の床の上にある備品 (%)

備品が占有する床面積が、およそ何平方メートルか、または畳何畳分かを書いてもらった。先と同様に、畳1畳を1.65平方メートルとして、平方メートルに換算した。平均（標準偏差）を算出すると、9.3(10.4)平方メートルであった（N=538）。

平均値と標準偏差を比較すると、標準偏差の値の方が大きい。そこで分布を調べてみた。図2-4にそのヒストグラムを示す。横軸は2から84平方メートルまでの2平方メートルのステップである。この図から、10平方メートル程度までの保育所が多いことが分かる。

保育室の床面積の平均は50.7平方メートルであった。この値から、今回算出した平均値9.3平方メートルを引くと、41.4平方メートルになる。この値を、この保育室で主に生活する子どもの平均人数13.0で割ると、3.2平方メートルとなる。この商は、一人あたりの面積の最低基準である3.3平方メートルを下回るものである。この結果は、認可保育園でも、床に置く備品が保育室を占有する面積を減じると、一人あたりの最低基準面積を下回ることを示すものである。

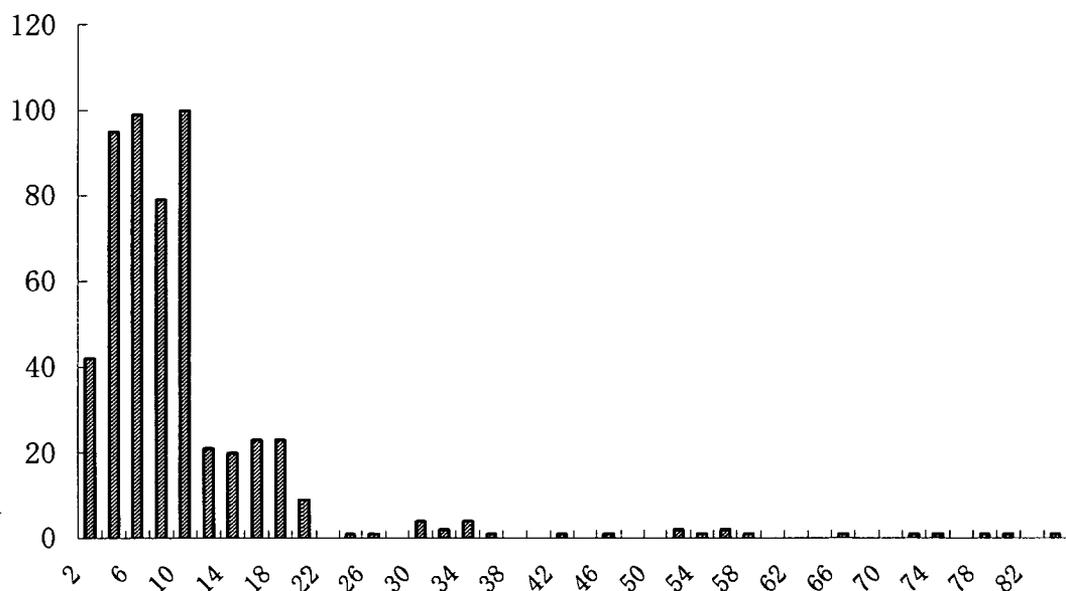


図2-4 備品が占有している床面積の分布

(5) 保育室が狭いと感ずる時間帯

「保育をしていて、この保育室が狭い（もっと広いほうがよい）と感ずる時間帯（活動）はありますか」という設問に、「はい」または「いいえ」を選択してもらったところ、「はい」は51.1%であった（無回答が37票あったため、N=656）。約半数が狭さを感じていた。

「はい」と答えた方に、そのように感ずる時間帯すべてに○をつけてもらった結果が表2-4である。割合の高い順に並べてある。最もよく選ばれた時間帯（活動）は、午前の遊びであり、3分の2の園で狭いと感ずられていた。食事（授乳を含む）や睡眠の時間帯も40%以上の園で狭いと感ずられており、これらの時間帯には保育士は、子どもに十分な対応ができていないと判断していた。

「その他」の時間帯（活動）としては、次の3つのような内容が記載されていた。①子どもの成長に応じたかわりが必要な時（前期ベッドの数が多いため。子供たちが後半に成長してきた時。3人の場

合は、スペースは良いが6人になると共同スペースが増え、区切ることが難しくなると感ずる）。②部屋を区切るなど、複数の活動を同時にしようとする時（食事の前後。食事の済んだ後、片付けをして、布団を敷くので保育室の中に食事をする場所を確保したい。食事終了後、着替えて後片付けをして、午睡準備をする時。食事後、仕切った部分に布団を敷き、昼寝の準備をしているので眠るまでが狭い。運動するスペースが同じ階にないので、すぐには移動できない時。0歳児ひとりひとりの睡眠が保障できる時間帯。ベビーマッサージの時、午前睡眠の時。布団などを置く場所が狭い。午前寝、午後寝（1日2回睡眠をとる子）と1日午後寝だけの子がいる時→寝ていること遊んでいる子が同時帯となる時。区切り使用のとき）。③その他、園独自の活動や園特有の事情の時（汚物、流しが設置されていない。沐浴場が室外にあり、沐浴しにくい。保育参加や地域交流事業で大人の人数が多くなった時）。

表2-4 この保育室が狭いと感ずる時間帯（活動）として選ばれた割合（%）

時間帯（活動）	割合
2. 午前の遊び	66.6
4. 食事（授乳を含む）	46.3
5. 睡眠	46.0
3. 午後の遊び	38.5
6. 排泄（オムツ交換を含む）	23.0
1. 朝の受け入れ時	13.4
8. 清潔（沐浴、清拭等）	13.4
7. 着脱	13.1
9. 延長保育時	9.0
10. 引き渡し時	5.7
11. その他	4.8

(6) 保育室が今より広くなった時に子どもや保育士の行動に生じる変化

表2-5は、「この保育室が今より広くなるとすれば、子どもや保育士の行動にどのような変化が生じると思いますか」という聞き方で、以下のようになると思うか、変わらないと思うか、むしろ項目とは逆のようになると思うかを判断してもらった結果を示したものである。ランダムに反応すると33.3%になる。そこでこの値を期待値として、実測値(表の

値)と期待値との差を検定した。そして期待値よりも有意($p<0.05$)に大きな値はゴシック体で示し、有意に小さな値は文字サイズを小さくした。

部屋が広くなると、子どもについては「身体的活動がしやすい」「睡眠など適切な休息をとれる」、保育士については「玩具・遊具など物的環境を管理しやすい」「遊びの援助がしやすい」状態になると判断された。

表2-5 保育室が今より広くなった時に生じる変化(%)

A群 子どもについて	こうなる	変わらない	逆になる
1. 食事を楽しむことができる	27.7	67.2	5.1
2. 睡眠など適切な休息をとれる	49.4	48.0	2.6
3. 清潔を保つ行動が増える	23.3	73.0	3.7
4. 身体的活動がしやすい	73.5	24.0	2.6
5. 聞く見る触れるなど感覚を使う機会が増える	36.2	62.0	1.8
6. 言葉(喃語を含む)を発しやすくなる	11.2	85.7	3.1
7. 周囲の人やものに興味・関心をもつ	25.4	71.7	2.9
8. 情緒が安定する	33.6	57.6	8.8
9. 機嫌がよくなる	32.5	63.2	4.3
10. 集中して遊ぶようになる	37.0	52.4	10.6
11. 怪我が多くなる	21.3	61.5	17.2
12. 子どもが疲れにくくなる	13.7	74.9	11.4
13. 子ども同士のかかわりが多くなる	14.6	74.9	10.5
14. 子どものかみつきが少なくなる	33.7	60.9	5.5
15. 保育室から出ていかない	17.7	78.5	3.7
16. 保育士への関わりを多く求める	8.1	87.0	4.9
B群 保育士について			
1. 健康状態の把握がしやすい	8.3	78.5	13.1
2. スキンシップをとりやすい	16.1	71.1	12.9
3. 排泄の援助がしやすい	29.6	59.3	11.1
4. 食事の援助がしやすい	38.5	55.2	6.4
5. 睡眠の援助がしやすい	46.5	48.9	4.6
6. 清潔の援助がしやすい	27.5	66.4	6.1
7. 着脱の援助がしやすい	27.1	67.5	5.3
8. 遊びの援助がしやすい	51.8	39.8	8.4
9. 言葉かけがしやすい	11.3	74.2	14.5
10. 保育士同士の会話がしやすい	5.2	78.7	16.1
11. 温度湿度の管理がしやすい	7.1	63.3	29.6
12. 玩具・遊具など物的環境を管理しやすい	54.0	34.6	11.4
13. 安全管理をしやすい	30.7	47.7	21.5
14. 保育士のストレスがたまらない	29.5	65.5	5.0
15. 保育士が疲れにくくなる	18.4	72.0	9.5
16. 保育士の口調が柔らかくなる	12.2	81.3	6.4
17. 保育士が移動しやすくなる	33.7	55.2	11.1
18. 保育室以外で保育する機会が少なくなる	22.3	73.3	4.4

(7) 保育室が広いと感じる時間帯

「保育をしながら、この保育室が広い（もっと狭いほうがよい）と感じる時間帯（活動）はありますか」という設問に、「はい」または「いいえ」を選択してもらったところ、「はい」は7.2%であった（無回答が50票あったため、N=643）。広いとはあまり感じていないといえる。

「はい」と答えた方に、そのように感じる時間帯すべてに○をつけてもらった結果が表2-6である。割合の高い順に並べてある。40%以上の時間帯（活

動）はなかった。相対的には、朝の受け入れ時、午前の遊び、睡眠、食事（授乳を含む）で広いと感じている保育所が多かった。これらの時間帯（活動）は一人一人に目が行き届く必要がある。広すぎる保育室では、これらの活動は困難であると言えよう。

「その他」の時間帯（活動）としては、次の2つの内容が記載されていた（原文のまま）。①粗大遊びのとき、②混合でなく0,1歳児それぞれ単独クラスを望む。ていねいに子どもを観察する必要がある場合には、広すぎる保育室は困るのであろう。

表2-6 この保育室が広いと感じる時間帯（活動）として選ばれた割合（%）

時間帯（活動）	割合
1. 朝の受け入れ時	39.1
2. 午前の遊び	39.1
5. 睡眠	34.8
4. 食事（授乳を含む）	30.4
3. 午後の遊び	28.3
6. 排泄（オムツ交換を含む）	28.3
9. 延長保育時	15.2
10. 引き渡し時	13.0
7. 着脱	10.9
8. 清潔（沐浴、清拭等）	10.9
11. その他	4.3

(8) 保育室が今より狭くなった時に子どもや保育士の行動に生じる変化

表2-7は、「この保育室が今より狭くなるとすれば、子どもや保育士の行動にどのような変化が生じると思いますか」という聞き方で、以下のようになると思うか、変わらないと思うか、むしろ項目とは逆のようになると思うかを判断してもらった結果を示したものである。実測値(表の値)と期待値(33.3%)との差を検定し、期待値よりも有意($p<0.05$)に大きな値はゴシック体で示し、有意に小さな値は文字サイズを小さくした。

部屋が狭くなると、子どもについては「食事を楽しむことができなくなる」(下線は「逆になる」という結果のため項目の表現を変えたことを示す。以下

同じ)「睡眠など適切な休息をとれなくなる」「清潔を保つ行動が減る」「身体的活動がしにくくなる」「聞く見る触れるなど感覚を使う機会が減る」「情緒が不安定になる」「機嫌が悪くなる」「集中して遊ばなくなる」「子どもが疲れやすくなる」「子どものかみつきが多くなる」「保育室から出て行く」という状態になると判断された。保育士については、「排泄・食事・睡眠・清潔・着脱・遊びの援助がしにくくなる」「玩具・遊具など物的環境や安全の管理がしにくくなる」「ストレスがたまる」「疲れやすくなる」「口調が激しくなる」「移動がしにくくなる」「保育室以外で保育をする機会が増える」という状態になると判断された。

表2-7 保育室が今より狭くなった時に生じる変化(%)

A群 子どもについて	こうなる	変わらない	逆になる
1. 食事を楽しむことができる	0.8	26.5	72.7
2. 睡眠など適切な休息をとれる	1.7	15.8	82.5
3. 清潔を保つ行動が増える	3.1	47.0	49.9
4. 身体的活動がしやすい	1.3	8.4	90.2
5. 聞く見る触れるなど感覚を使う機会が増える	3.4	44.4	52.2
6. 言葉(喃語を含む)を発しやすくなる	2.0	68.3	29.7
7. 周囲の人やものに興味・関心をもつ	4.6	59.7	35.8
8. 情緒が安定する	2.5	28.4	69.1
9. 機嫌がよくなる	1.5	29.0	69.5
10. 集中して遊ぶようになる	3.7	34.3	61.9
11. 怪我が多くなる	36.5	27.7	35.7
12. 子どもが疲れにくくなる	8.5	46.8	44.7
13. 子ども同士のかかわりが多くなる	12.6	57.0	30.4
14. 子どものかみつきが少なくなる	7.4	24.7	67.8
15. 保育室から出ていかない	4.1	46.2	49.7
16. 保育士への関わりを多く求める	23.1	54.0	22.9
B群 保育士について			
1. 健康状態の把握がしやすい	9.6	70.7	19.7
2. スキンシップをとりやすい	9.2	64.8	26.0
3. 排泄の援助がしやすい	4.4	47.8	47.8
4. 食事の援助がしやすい	2.7	33.9	63.4
5. 睡眠の援助がしやすい	2.2	31.3	66.6
6. 清潔の援助がしやすい	3.4	50.3	46.3
7. 着脱の援助がしやすい	3.7	45.2	51.1
8. 遊びの援助がしやすい	4.2	27.5	68.3
9. 言葉かけがしやすい	7.7	68.0	24.2
10. 保育士同士の会話がしやすい	7.3	74.7	18.0
11. 温度湿度の管理がしやすい	18.9	59.3	21.8
12. 玩具・遊具など物的環境を管理しやすい	6.4	35.3	58.3
13. 安全管理をしやすい	7.6	40.1	52.3
14. 保育士のストレスがたまらない	3.2	33.7	63.1
15. 保育士が疲れにくくなる	3.2	46.0	50.8
16. 保育士の口調が柔らかくなる	2.7	59.1	38.2
17. 保育士が移動しやすくなる	8.3	45.2	46.5
18. 保育室以外で保育する機会が少なくなる	8.1	35.1	56.7

(9) 保育室の環境の評価

表2-8は、保育室の環境評価について、どのくらいの頻度で話し合いをしているか、またどのくらいの頻度でかえているかについて選択された割合を示したものである。話し合いの頻度では、「月1回程度」が最も多く、約4割の保育所がこれを選択した。しかし次に多いのは「決まっていない」であり、これも4割近い保育所が選択していた。話し合いが定期的に行われている保育所と不定期にしか行われていない保育所があると言える。

環境をかえる頻度については「決まっていない」が最も多く、約4割の保育所がこれを選択した。保育環境について話し合いをしても、変えられるとは限らないのであろう。

この保育室の現在の広さについて、「今の広さがち

ょうどよい」「今より広いほうがよい」「今より狭いほうがよい」の中から選んでもらった。その結果、「今の広さがちょうど良い」は58.0%、「今より広いほうがよい」は41.1%、「今より狭いほうがよい」は0.9%であった。また、「今より広いほうがよい」を選んだ保育所に「具体的にあとどのくらい広いほうがよいですか」と尋ねたところ、平均で17.2平方メートル広いほうがよいと判断された(N=225)。さらに、「今より狭いほうがよい」を選んだ保育所に「具体的にあとどのくらい狭いほうがよいですか」と尋ねたところ、平均で23.1平方メートル狭いほうがよいと判断された(N=4)。

表2-8 保育室の環境評価の頻度

	話し合いの頻度	更新の頻度
1. 週1回程度	8.6	1.5
2. 月1回程度	39.8	22.6
3. 2～3月に1回程度	10.3	23.0
4. 3～6か月に1回	3.8	13.5
5. 決まっていない	37.5	39.5

1歳児の保育室について（C票）

ここでは1歳児の保育室について（C票）を分析の対象とした。0歳児の保育室の分析と同様、A票で0～2歳まですべてが混合のクラスを設定している調査票は分析対象から外した。さらに、この保育室で主に生活する子どもの人数を尋ねた質問で、1歳児が0名、もしくは空欄であった場合も分析からはずした。分析対象は、777票であった。

（1）この保育室で生活する子どもの人数

表3-1は、この保育室で主に生活する子どもの人数の平均を示したものである。0歳児の平均は1.3名、1歳児の平均は11.9名、2歳児は1.9名、その他は0.6名であった。しかしながら、この値は、分

析対象である777園のすべてにこれらの数の子どもがいるわけではない。1歳児、2歳児、その他の年齢児は、特定の園に数多くいるのである。具体的には、0歳児は194園に平均5.2名、2歳児は169園に8.8名、その他は23園に19.6名がいた。このことは、1歳児の部屋に、もし他の年齢の子どもがいる場合、かなりの人数がいることを示している。様々な年齢で1つの保育室を利用する場合、かなりの数の異年齢児がいると考えるのが妥当であろう。

図3-1は合計人数の分布を示したものである。横軸は、1名から30名までが一人ずつ、30名から60名までが5名ずつ、60名から130名までが10名ずつとした。10名程度部屋が多いが、中には100名以上もいる部屋を1歳児の部屋として想定している園もあった。

表3-1 1歳児の保育室で主に生活する子どもの人数

	0歳児	1歳児	2歳児	その他	合計
平均人数	1.3	11.9	1.9	0.6	15.7

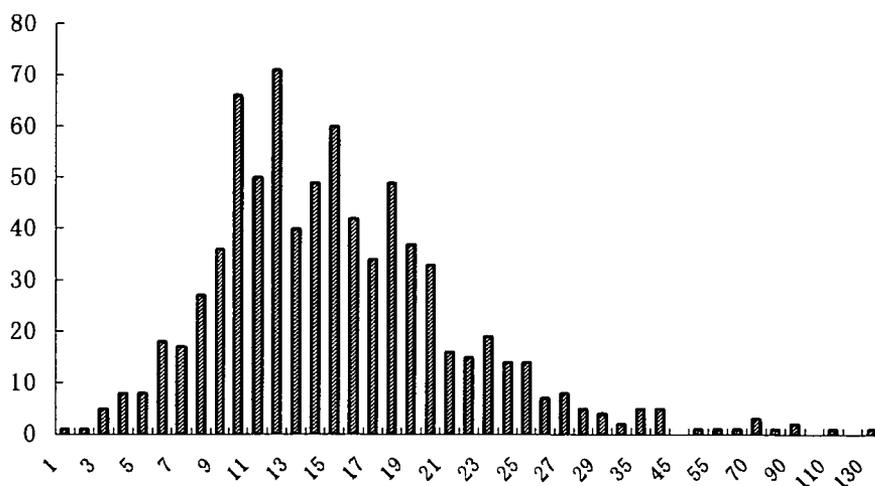


図3-1 1歳児の保育室にいる全人数の分布

(2) 保育室で行われている活動

表3-2は、食事や睡眠など乳児が主として行う活動がどの程度、この保育室で行われているかを示したものである。主としてこの保育室を利用している割合が95%以上の活動は、割合が高い順に、衣服の着脱と遊びであった。さらに食事と睡眠も90%以上であった。排泄の活動としてはおむつ交換やおまるの使用などが該当するため、清潔に関する活動は水回りが必要なため、部屋を分けているところがある

るのであろう。

表3-2の右の欄には、主としてこの保育室を利用している場合に、部屋を区切って他の活動と共用しているか、それとも区切らずに使用しているかを区別した時に前者である割合を示したものである。排泄と清潔は区切って使用している割合がやや高く、衣服の着脱と遊びは区切らずに使用している割合が高かった。

表3-2 保育室の利用状況 (%)

	主としてこの保育室を利用している割合	左のうち、区切って他の活動と共用している割合
食事	94.2	44.8
睡眠	93.6	42.6
排泄	66.4	63.2
衣服の着脱	97.8	34.3
清潔 (沐浴、清拭等)	66.6	50.0
遊び (その遊びを除く)	95.6	30.1

表3-3は、食事、睡眠、排泄、衣服の着脱(着脱)、清潔、遊びについて、区切って他の活動を共用しているという回答を1、区切らず使用という回答を2として、活動間の相関係数(r)を算出した結果を示したものである(ピアソンの積率相関で計算)。6つの活動のすべてに回答している調査票のみを分

析対象としているので、N=207と若干少なくなっている。係数はいずれの組み合わせも有意な値であった。このことから、ある活動で部屋を区切って使用している園は、他の活動でも部屋を区切って使用している可能性が高いと言える。

表3-3 部屋の使い方に関する相関係数

	食事	睡眠	排泄	着脱	清潔	遊び
食事	1	0.82	0.52	0.62	0.52	0.61
睡眠		1	0.53	0.56	0.50	0.56
排泄			1	0.45	0.69	0.39
着脱				1	0.55	0.57
清潔					1	0.40
遊び						1

(3) 保育室の床面積

保育室の床面積を平方メートルか、畳で何畳かで記入してもらった。畳1畳を1.65平方メートルとして、平方メートルに換算し、平均値を求めた。その結果、平均(標準偏差)は53.7(32.1)平方メートルであった。表3-1に示したように、この保育室で過ごしている子どもの人数の平均が15.7人なので、一人あたり3.4平方メートルということになる。調査対象がすべて認可保育園であることを考えると、平均値は妥当な値であろう。

中央値を算出すると、47.6平方メートルと平均値よりも小さな値であった。また、最小値と最大値を

みると、最小値は20平方メートル、最大値は540平方メートルであった。最小値は一人あたりの基準である3.3平方メートルを大きく下回っていた。

図3-2は、床面積の分布を示したものである。横軸は10から250平方メートルまでを10平方メートルごと、250から300平方メートルと300平方メートル以上は100平方メートルごとに示している。40平方メートル(30~40平方メートル)が最も多く、右(広い面積側)に裾野が長くなっている。200平方メートル以上の園は、225、300、540平方メートルの3園であった。

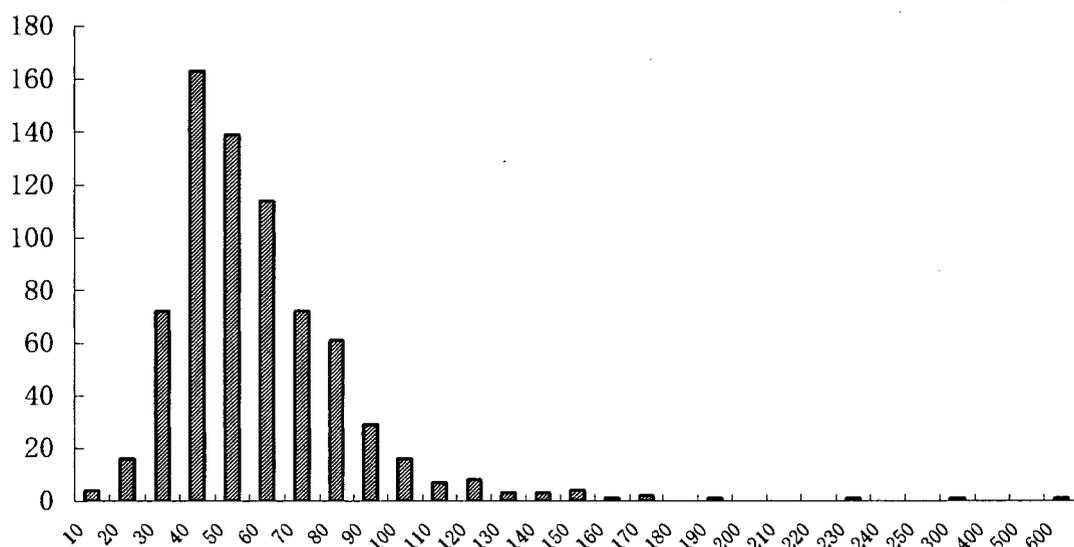


図3-2 床面積の分布

(4) 保育室の床の上の備品

図3-3は、保育室の床の上に置いてある備品（いつも床の上に置いてあるもの）として選ばれた割合を、高い順に示したものである。子どもの個人用ロッカー、食事用机椅子、遊具の収納棚の3つが50%を超えており、半数以上の保育所ではこれらの備品が床を占有していると言える。

その他としてあげられた備品には、ストーブなど

の暖房器具、空気清浄機・加湿器など空調器具、手洗い場、流し台・配膳台など水回りや食事に関する備品、絵本棚・おもちゃの棚など遊具や玩具教材等の収納棚、滑り台・ままごとコーナーなど遊具や遊びの空間、畳・衝立など空間に関するもの、おむつ入れ棚、押入など収納に関する備品などがあつた。

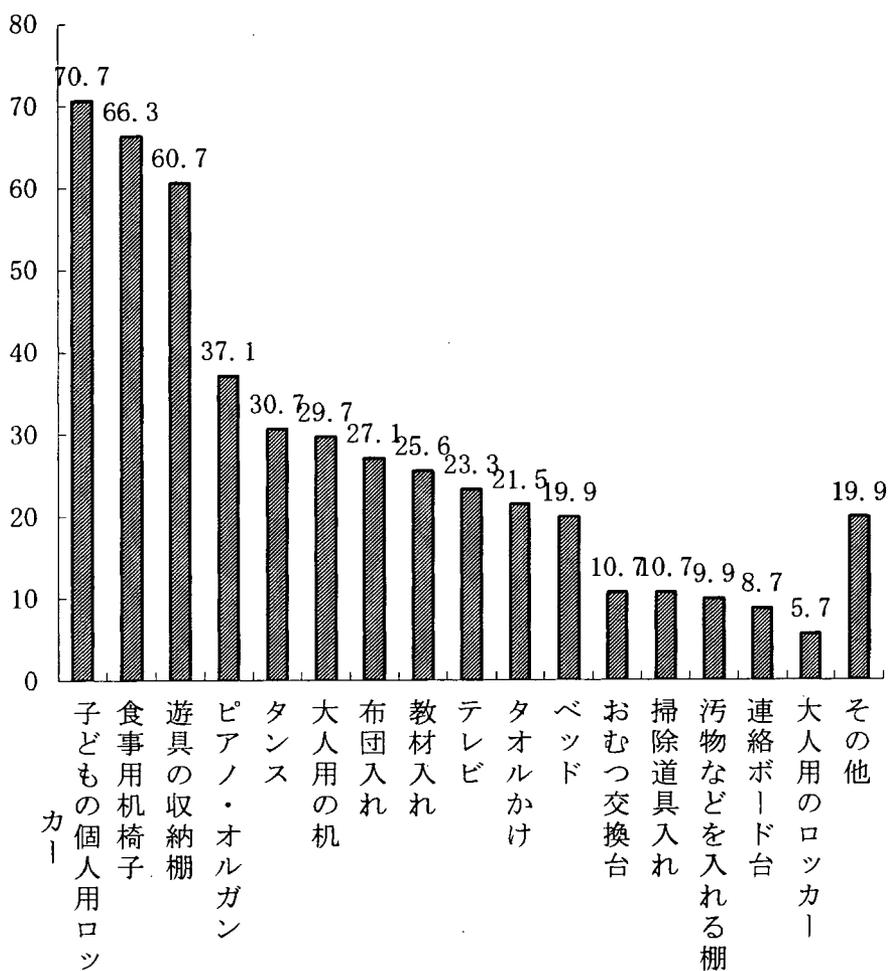


図3-3 保育室の床の上にある備品 (%)

備品が占有する床面積が、およそ何平方メートルか、または畳何畳分かを書いてもらった。先と同様に、畳1畳を1.65平方メートルとして、平方メートルに換算した。平均(標準偏差)を算出すると、7.7(7.4)平方メートルであった(N=566)。

平均値と標準偏差を比較すると、標準偏差の値がかなり大きい。そこで分布を調べてみた。図3-4にそのヒストグラムを示す。横軸は2から70平方メートルまでの2平方メートルのステップである。この図から、10平方メートル程度までの保育所が多いこと、平均の床面積よりも広い面積を床に置いた備品で占めている保育所もあることが分かる。

保育室の床面積の平均は53.7平方メートルであっ

た。この値から、今回算出した平均値7.7平方メートルを引くと、46.0平方メートルになる。この値を、この保育室で主に生活する子どもの平均人数15.7で割ると、2.9平方メートルとなる。この商は、一人あたりの面積の最低基準である3.3平方メートルを下回るものである。この結果は、認可保育所でも、床に置く備品が保育室を占有する面積を減じると、一人あたりの最低基準面積を下回ることを示すものである。子ども用の個人ロッカーや遊具の収納箱など、床の上に置かざるを得ない備品もある。面積の最低基準は、このような備品の量を勘案して決める必要がある。

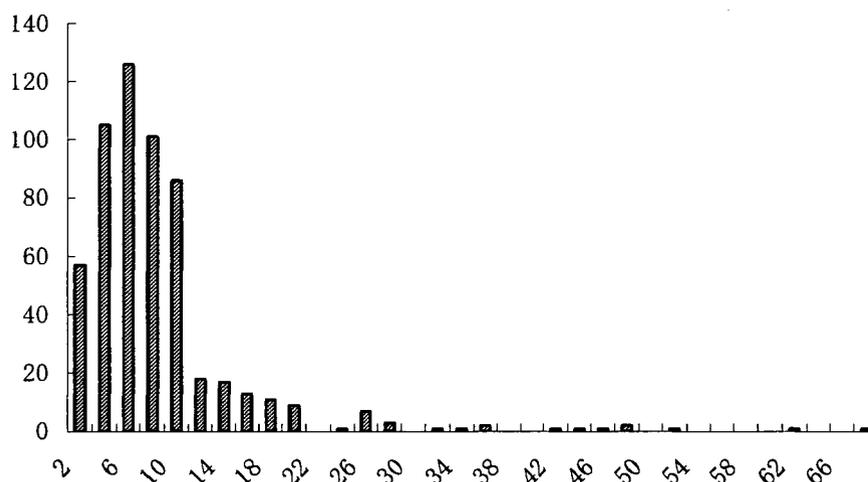


図3-4 備品が占有している床面積の分布

(5) 保育室が狭いと感じる時間帯

「保育をしていて、この保育室が狭い（もっと広いほうがよい）と感じる時間帯（活動）はありますか」という設問に、「はい」または「いいえ」を選択してもらったところ、「はい」は49.2%であった（無回答が58票あったため、N=717）。約半数が狭さを感じていた。

「はい」と答えた方に、そのように感じる時間帯すべてに○をつけてもらった結果が表3-4である。割合の高い順に並べてある。最もよく選ばれた時間帯（活動）は、午前の遊びであり、3分の2の園で狭いと感じられていた。午後の遊び、睡眠、食事（授乳を含む）の時間帯も3分の1以上の園では狭いと感じられており、これらの時間帯には保育士は、子どもに十分な対応ができていないと判断していた。

「その他」の時間帯（活動）としては、次の3つのような内容が記載されていた。①食後など、活動を切り替える時（食前食後の一斉にそろった時／昼食後の任意遊び及びおむつ交換の時間帯／食事をして

ている子と遊んでいる子など別々の行動をしている時／食事と睡眠の部屋を区切りたい／食事後の片付けの間【保育室の掃除の間、廊下等に出ないといけない】／食後の自由時間／食後の自由あそび）。②悪天候で全員が室内で過ごさざるを得ない時（真冬で雨の午前活動時／雨天の日の自由遊び時／外に出られない時と掃除の時間帯／雨の日の室内遊び／雨の日の午前の遊び／悪天候で外に出られない時）。③その他、園独自の活動や園特有の事情の時（体操など全身運動を伴う活動の時／動きが大きくなっていく後半は思う。夕刻保育にも使うのでこのときは思う／異年齢で活動が違うとき／一時保育が一緒になった時／夕方の合同保育になったとき／保育室そのものは、この広さでよいが一日中同じところにいるため、遊戯室での遊びを多く取り入れているが3歳以上児と時間帯が重なるため、ほかに広い場所がほしい／保育参加や地域事業で大人の人数が多くなった時）。

表3-4 この保育室が狭いと感じる時間帯（活動）として選ばれた割合（%）

時間帯（活動）	割合
2. 午前の遊び	66.4
3. 午後の遊び	39.5
5. 睡眠	39.3
4. 食事（授乳を含む）	39.0
6. 排泄（オムツ交換を含む）	22.0
7. 着脱	17.5
1. 朝の受け入れ時	14.7
9. 延長保育時	13.6
8. 清潔（沐浴、清拭等）	10.5
10. 引き渡し時	5.9
11. その他	7.6

(6) 保育室が今より広くなった時に子どもや保育士の行動に生じる変化

表3-5は、「この保育室が今より広くなるとすれば、子どもや保育士の行動にどのような変化が生じると思いますか」という聞き方で、以下のようになると思うか、変わらないと思うか、むしろ項目とは逆のようになると思うかを判断してもらった結果を示したものである。ランダムに反応すると33.3%になる。そこでこの値を期待値として、実測値(表の

値)と期待値との差を検定した。そして期待値よりも有意($p<0.05$)に大きな値はゴシック体で示し、有意に小さな値は文字サイズを小さくした。

部屋が広くなると、子どもについては「身体的活動がしやすい」「睡眠など適切な休息が取れる」、保育士については「玩具・遊具など物的環境を管理しやすい」「遊びの援助がしやすい」状態になると判断された。

表3-5 保育室が今より広くなった時に生じる変化(%)

A群 子どもについて	こうなる	変わらない	逆になる
1. 食事を楽しむことができる	25.8	69.5	4.7
2. 睡眠など適切な休息をとれる	39.5	57.1	3.3
3. 清潔を保つ行動が増える	21.2	75.4	3.4
4. 身体的活動がしやすい	73.0	24.4	2.6
5. 聞く見る触れるなど感覚を使う機会が増える	32.0	65.2	2.8
6. 言葉(喃語を含む)を発しやすくなる	10.5	85.4	4.1
7. 周囲の人やものに興味・関心をもつ	22.2	73.2	4.6
8. 情緒が安定する	31.2	59.4	9.3
9. 機嫌がよくなる	30.0	65.9	4.1
10. 集中して遊ぶようになる	35.8	52.8	11.4
11. 怪我が多くなる	24.7	56.1	19.2
12. 子どもが疲れにくくなる	14.2	74.9	10.9
13. 子ども同士のかかわりが多くなる	16.9	74.2	8.8
14. 子どものかみつきが少なくなる	35.9	57.5	6.6
15. 保育室から出ていかない	16.1	79.7	4.1
16. 保育士への関わりを多く求める	7.5	87.6	4.9
B群 保育士について			
1. 健康状態の把握がしやすい	7.7	76.8	15.5
2. スキンシップをとりやすい	13.8	70.0	16.2
3. 排泄の援助がしやすい	26.8	61.5	11.7
4. 食事の援助がしやすい	33.7	58.9	7.4
5. 睡眠の援助がしやすい	36.1	56.3	7.5
6. 清潔の援助がしやすい	25.9	67.5	6.7
7. 着脱の援助がしやすい	30.4	61.8	7.9
8. 遊びの援助がしやすい	48.7	41.3	10.0
9. 言葉かけがしやすい	11.0	73.8	15.3
10. 保育士同士の会話がしやすい	4.8	77.4	17.9
11. 温度湿度の管理がしやすい	7.3	64.7	28.0
12. 玩具・遊具など物的環境を管理しやすい	50.3	39.3	10.4
13. 安全管理をしやすい	26.5	50.2	23.3
14. 保育士のストレスがたまらない	27.4	67.0	5.6
15. 保育士が疲れにくくなる	15.9	74.4	9.7
16. 保育士の口調が柔らかくなる	11.1	80.3	8.6
17. 保育士が移動しやすくなる	27.2	61.9	10.9
18. 保育室以外で保育する機会が少なくなる	21.3	74.6	4.2

(7) 保育室が広いと感じる時間帯

「保育をされていて、この保育室が広い（もっと狭いほうがよい）と感じる時間帯（活動）はありますか」という設問に、「はい」または「いいえ」を選択してもらったところ、「はい」は10.9%であった（無回答が72票あったため、N=705）。広いとはあまり感じていないといえる。

「はい」と答えた方に、そのように感じる時間帯すべてに○をつけてもらった結果が表3-6である。割合の高い順に並べてある。40%以上の時間帯（活動）はなかった。相対的には、午前の遊び、午後の

遊び、食事（授乳を含む）、睡眠で広いと感じている保育所が多かった。これらの上位4項目は、表3-4に示した狭い（もっと広い方がよい）と感じている時間帯（活動）と一致していた。保育者はこれらの時間帯（活動）を重視していると考えられる。「その他」の時間帯（活動）としては、次の4つの内容が記載されていた（原文のまま）。①人数が少ないとき、0.1才児混合なのでおちついたスペースを作りたい（0才にとっては）。②自由遊びの時間。③午後の掃除の時、外に出られない時。④雨天の時。

表3-6 この保育室が広いと感じる時間帯（活動）として選ばれた割合（%）

時間帯（活動）	割合
2. 午前の遊び	37.7
3. 午後の遊び	32.5
4. 食事（授乳を含む）	31.2
5. 睡眠	31.2
1. 朝の受け入れ時	28.6
6. 排泄（オムツ交換を含む）	26.0
7. 着脱	26.0
9. 延長保育時	15.6
10. 引き渡し時	14.3
8. 清潔（沐浴、清拭等）	6.5
11. その他	6.5

(8) 保育室が今より狭くなった時に子どもや保育士の行動に生じる変化

表3-7は、「この保育室が今より狭くなるとすれば、子どもや保育士の行動にどのような変化が生じると思いますか」という聞き方で、以下のように思うか、変わらないと思うか、むしろ項目とは逆のようになると思うかを判断してもらった結果を示したものである。実測値(表の値)と期待値(33.3%)との差を検定し、期待値よりも有意(p<0.05)に大きな値はゴシック体で示し、有意に小さな値は文字サイズを小さくした。

部屋が狭くなると、子どもについては「食事を楽しむことができなくなる」(下線は「逆になる」とい

う結果のため項目の表現を変えたことを示す。以下同じ)「睡眠など適切な休息をとれなくなる」「清潔を保つ行動が減る」「身体的活動がしにくくなる」「情緒が不安定になる」「機嫌が悪くなる」「集中して遊ばなくなる」「怪我が多くなる」「子どもが疲れやすくなる」「子どものかみつきが多くなる」「保育室から出て行く」という状態になると判断された。保育士については、「排泄・食事・睡眠・清潔・着脱・遊びの援助がしにくくなる」「玩具・遊具など物的環境や安全の管理がしにくくなる」「ストレスがたまる」「疲れやすくなる」「移動がしにくくなる」「保育室以外で保育をする機会が増える」という状態になると判断された。

表3-7 保育室が今より狭くなった時に生じる変化 (%)

A群 子どもについて	こうなる	変わらない	逆になる
1. 食事を楽しむことができる	1.8	34.7	63.5
2. 睡眠など適切な休息をとれる	2.0	27.8	70.2
3. 清潔を保つ行動が増える	3.1	50.9	46.0
4. 身体的活動がしやすい	2.6	12.0	85.4
5. 聞く見る触れるなど感覚を使う機会が増える	2.3	51.7	46.0
6. 言葉(喃語を含む)を発しやすくなる	2.3	71.5	26.2
7. 周囲の人やものに興味・関心をもつ	4.2	65.0	30.9
8. 情緒が安定する	3.5	34.0	62.5
9. 機嫌がよくなる	1.7	37.2	61.1
10. 集中して遊ぶようになる	5.4	36.8	57.8
11. 怪我が多くなる	42.2	27.0	30.7
12. 子どもが疲れにくくなる	8.3	50.2	41.4
13. 子ども同士のかかわりが多くなる	13.6	61.8	24.6
14. 子どものかみつきが少なくなる	6.8	27.2	66.1
15. 保育室から出ていかない	3.1	49.3	47.6
16. 保育士への関わりを多く求める	20.3	61.9	17.8
B群 保育士について			
1. 健康状態の把握がしやすい	10.3	71.5	18.2
2. スキンシップをとりやすい	11.4	65.3	23.3
3. 排泄の援助がしやすい	7.1	45.1	47.8
4. 食事の援助がしやすい	4.2	38.7	57.2
5. 睡眠の援助がしやすい	3.4	40.7	55.9
6. 清潔の援助がしやすい	4.6	50.4	45.0
7. 着脱の援助がしやすい	5.2	44.1	50.7
8. 遊びの援助がしやすい	5.8	32.3	61.9
9. 言葉かけがしやすい	10.9	66.3	22.8
10. 保育士同士の会話がしやすい	11.8	72.6	15.6
11. 温度湿度の管理がしやすい	18.0	62.8	19.2
12. 玩具・遊具など物的環境を管理しやすい	7.8	35.7	56.5
13. 安全管理をしやすい	8.7	41.4	49.9
14. 保育士のストレスがたまらない	5.6	38.3	56.1
15. 保育士が疲れにくくなる	4.5	50.4	45.1
16. 保育士の口調が柔らかくなる	2.8	62.3	34.9
17. 保育士が移動しやすくなる	11.3	45.0	43.7
18. 保育室以外で保育する機会が少なくなる	9.6	40.0	50.4

(9) 保育室の環境の評価

表3-8は、保育室の環境評価について、どのくらいの頻度で話し合いをしているか、またどのくらいの頻度でかえているかについて、選択された割合を示したものである。話し合いの頻度では、「決まっていない」が最も多く、約4割の保育所がこれを選択した。次に多いのは「月1回程度」であった。話し合いが不定期にしか行われていない保育所が多く、定期的に行われていても月に1回程度であると言える。

環境をかえる頻度については「決まっていない」が最も多く、4割の保育所がこれを選択した。保育環境について話し合いをしても、変えられるとは限らない。実際に環境が変わるのは、せいぜい学期に1度や行事後にかえる程度というのが現状であろう。

この保育室の現在の広さについて、「今の広さがちょうどよい」「今より広いほうがよい」「今より狭いほうがよい」の中から選んでもらった。その結果、「今の広さがちょうどよい」は57.5%、「今より広いほうがよい」は40.9%、「今より狭いほうがよい」は1.7%であった。また、「今より広いほうがよい」を選んだ保育所に「具体的にあとどのくらい広いほうがよいですか」と尋ねたところ、平均で18.8平方メートル広いほうがよいと判断された(N=239)。さらに、「今より狭いほうがよい」を選んだ保育所に「具体的にあとどのくらい狭いほうがよいですか」と尋ねたところ、平均で23.4平方メートル狭いほうがよいと判断された(N=5)。

表3-8 保育室の環境評価の頻度

	話し合いの頻度	更新の頻度
1. 週1回程度	8.0	1.6
2. 月1回程度	36.4	23.3
3. 2～3月に1回程度	11.0	22.9
4. 3～6か月に1回	5.1	12.2
5. 決まっていない	39.5	40.0

2歳児の保育室について (D票)

ここでは「2歳児の保育室について (D票)」を分析の対象とした。0歳児や1歳児の保育室の分析と同様、A票で0～2歳まですべてが混合のクラスを設定している調査票は分析対象から外した。さらに、この保育室で主に生活する子どもの人数を尋ねた質問で、2歳児が0名、もしくは空欄であった場合も分析からはずした。分析対象は、823票であった。

(1) この保育室で生活する子どもの人数

表4-1は、この保育室で主に生活する子どもの人数の平均を示したものである。0歳児の平均は0.2

名、1歳児の平均は1.1名、2歳児は14.9名、その他は1.2名であった。しかしながら、この値は、分析対象である823園のすべてにこれらの数の子どもがいるわけではない。0歳児、1歳児、その他の年齢児は、特定の園に数多くいる。具体的には、0歳児は27園に平均47名、1歳児は182園に同5.2名、その他は75園に12.9名がいた。

図4-1は合計人数の分布を示したものである。横軸は、1名から30名までが一人ずつ、30名から60名までが5名ずつ、60名から110名までが10名ずつとした。18名程度の部屋が多いが、中には50名以上もいる部屋を2歳児の部屋として想定している園もあった。

表4-1 2歳児の保育室で主に生活する子どもの人数

	0歳児	1歳児	2歳児	その他	合計
平均人数	0.2	1.1	14.9	1.2	17.4

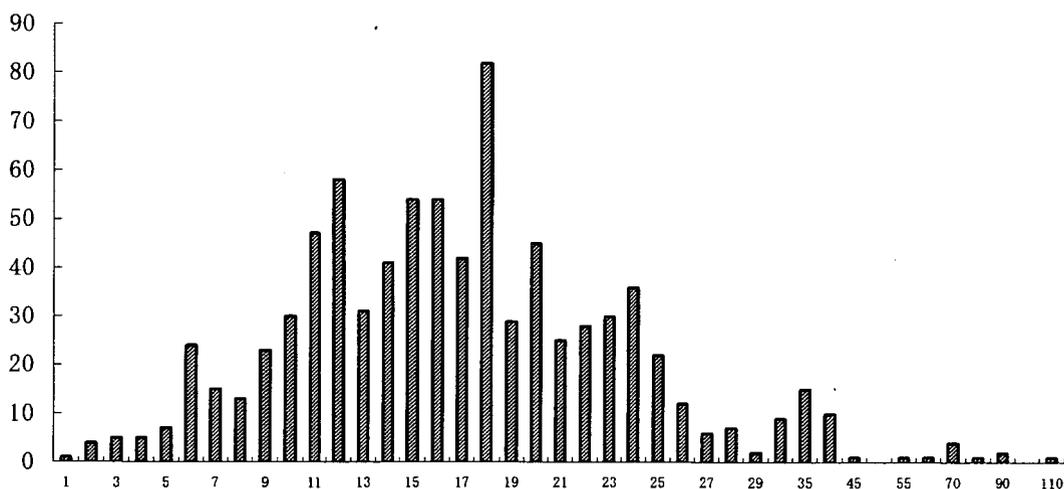


図4-1 1歳児の保育室にいる全人数の分布

(2) 保育室で行われている活動

表4-2は、食事や睡眠など乳児が主として行う活動がどの程度、この保育室で行われているかを示したものである。主としてこの保育室を利用している割合が95%以上の活動は、衣服の着脱のみであった。食事と遊び（外遊びを除く）も90%以上であった。0歳児や1歳児と異なり、睡眠は85.1%に止ま

った。

表4-2の右の欄には、主としてこの保育室を利用している場合に、部屋を区切って他の活動と共用しているか、それとも区切らずに使用しているかを区別した時に前者である割合を示したものである。排泄は区切って使用している割合がやや高いが、他はすべて40%以下であった。

表4-2 保育室の利用状況 (%)

	主としてこの保育室を利用している割合	左のうち、区切って他の活動と共用している割合
食事	94.4	35.3
睡眠	85.1	34.4
排泄	48.9	65.4
衣服の着脱	96.7	30.5
清潔（沐浴、清拭等）	62.4	39.0
遊び（外遊びを除く）	93.9	28.8

表4-3は、食事、睡眠、排泄、衣服の着脱（着脱）、清潔、遊びについて、区切って他の活動を共用しているという回答を1、区切らず使用という回答を2として、活動間の相関係数（r）を算出した結果を示したものである（ピアソンの積率相関で計算）。6つの活動のすべてに回答している調査票のみを分

析対象としているので、N=147と若干少なくなっている。係数はいずれの組み合わせも有意な値であった。このことから、ある活動で部屋を区切って使用している園は、他の活動でも部屋を区切って使用している可能性が高いと言える。

表3-3 部屋の使い方に関する相関係数

	食事	睡眠	排泄	着脱	清潔	遊び
食事	1	0.83	0.53	0.66	0.56	0.74
睡眠		1	0.50	0.61	0.60	0.75
排泄			1	0.50	0.68	0.47
着脱				1	0.61	0.62
清潔					1	0.52
遊び						1